

## 書評 新刊 紹介



Algae : an introduction to phycology  
C. van den Hoek, D. G. Mann and H. M. Jahns 著,  
Cambridge University Press  
Paperback edition : 24.95 ポンド (39.95 US\$)  
ISBN : 0 521 31687 1  
Hardback edition : 70.00 ポンド (110.00US\$)  
ISBN : 0 521 30419 9, 1996

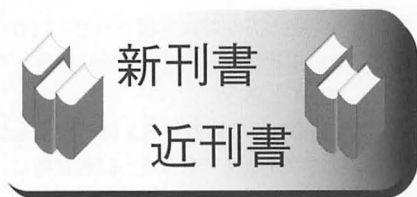
本書は1978年に出版されたドイツ語の藻学教科書「Algen」の英語版である。とは言え、内容はその後の藻学分野の研究の進展をもとに大幅に更新されている(本書と並行して1993年にはドイツ語版も出版されている)。一般に藻類の多様性を認識する際に用いられる様々な形質の説明を導入部とする教科書が多いのに対し、本書のIntroductionでは真核生物の成り立ち(共生説)から説明が始まる。そして「藻類」が生物界においてどのような系統的な位置を占めるグループであるかについて、わかりやすい解説がなされている。藻類が進化的に多様なグループの集まりであることを考えればこのように真核細胞進化のごく初期段階にまず目を向けて藻類を生物界の中に位置づけるという視点は当を得たものであり好感を覚える。以下に続く各論では藻類の全グループ(門の階級, 原核藻類も含む)についての解説がなされる。HeterokontophytaやChlorophytaのように大きなグループでは、さらに網のレベルで章を立てての解説がある。各論部分のそれぞれの章は概ね以下の構成となっている; 門(網)の一般的な特徴(箇条書きに体制, 鞭毛, 細胞外被, 葉緑体, 色素などの特徴がまとめられている), 門(網)に属する生物の種数と分布・生態の特徴, その分類群に固有なあるいは特筆すべき特徴の解説, 分類系, いくつかの種類の具体例。解説では形態レベルの特徴, 生活史の様式などに加えて細胞分裂様式や鞭毛装置構造など微細構造レベルのデータも数多く引用されている。本書の特徴の一つとして, 透過型電子顕微鏡写真をトレースした線画をふんだんに使っている点が挙げられる。著者等によれば「出来ることなら多くの本物の電顕写真を使いたかった」ということらしいが, かえって本物の写真を並べるよりエッセンスを抽

出したこれらの図の方が特に電顕写真を「読む」ことに慣れていない読者にとってははるかに理解しやすいものとなっていると思う。

ところで, おそらくこの教科書を開いた誰もが驚くのは緑色植物門の分類系であろう。緑色植物には3つの主な系統があつて, それらは緑藻綱, アオサ藻綱, シヤジク藻綱にまとめられる(ブラシノ藻綱を含めた4綱制)・・・と理解していたところに, 突然Prasinophyceae, Chlorophyceae, Ulvophyceae, Cladophorophyceae, Bryopsidophyceae, Dasycladophyceae, Trentepohliophyceae, Pleurostrophyceae, Klebsormidiophyceae, Zygnematophyceae, Charophyceaeという11綱制を目の当たりにすることになるのだから。著者等の意図は, 主に鞭毛装置構造に基づく4綱制にさらに細胞分裂様式や細胞壁組成, 生活史など固有の形質で明確にまとめることの出来るグループは綱としてまとめてしまうということである。4綱制がようやく定着しつつあり, またいくつかの遺伝子に関しては情報も多くなってきたとは言え, 分子系統学的な証拠はまだようやく蓄積が始まったところであるという現状を考えるとこの分類群の細分はいささか時期尚早との印象はまぬがれない。しかしながら, 考えてみれば伝統的な緑藻類の分類基準であった体制レベルの進化が必ずしも系統を反映していないことが明確となった今日, 4綱制も11綱制も本質的に変わりはないのであろうし, 分子の証拠からTrebouxiophyceaeという綱を新設しようという提唱も別の研究者によってなされているという最近の動きもある。いずれにしろ今後は, 緑藻類の高次分類系は, 4綱制よりは細分化の方向へ向かうことになるのであろう。

本書はそれぞれの分類群について十分なページ数が割かれており, 基本的な事柄から最新の研究成果まで豊富な情報が盛り込まれている。さらに巻末の用語の説明や引用文献も充実している(ただしほとんどが1990年以前のものである)。藻類全体を理解するための羅針盤としてすぐれた教科書であると言える。もともと本書は大学院生や学部の学生を対象としたものであるが, 藻学の講義をおこなう者にとっても役立つ本である。講義の際には, 本書に「スライドシリーズ」藻類の多様性」(日本藻類学会企画委員会)が加わればまさに鬼に金棒である。

堀口健雄(北海道大学大学院理学研究科)



海藻おしば カラフルな色彩の謎 横浜康継・野田  
三千代 共著, 94pp., 海遊舎 2,800円

まるいはマリモ 阿寒マリモ自然誌研究会文, 稗田一  
俊ほか写真 月刊たくさんのふしぎ1996年5月号(第  
134号)福音館書店 680円

21世紀の海藻資源 生態機構と利用の可能性 大野正  
夫(編著)緑水産学叢書-2, A5版280頁(カラー4頁),  
緑書房 3,800円

分子系統学 長谷川政美・岸野洋久(著)1996, 岩波書  
店 ISBN4-00-005938-6, 4200円

Bibliotheca Lichenologica, Band 48. J-G Knoph, K Shrüfer  
and HJM Sipman (eds.), Series: BIBLIOTHECA  
LICHENOLOGICA, 1995, 27 papers, 478 pages, Gebrüder  
Borntraeger, Germany, 125ポンド

Seagrass Biology. Proceedings of an International  
Workshop, Rottnest Island, Western Australia 25-29 January  
1996, 1996, J. Kuo, R. C. Phillips, D. I. Waker and H.  
Kirkman (Eds.), 385 pages, col. photos, University of  
Western Australia, ISBN 0864224451, A\$ 80

Algal Ecology: Freshwater Benthic Ecosystems.  
Stevenson, 1996, R. J. et al. (Eds.), pp. 758, Academic  
Press, ISBN 0126684502, 約 13,000円

Silicoflagellates (Dictyochophyceae).  
Biblio. Phycologica, Band 100. Desikachary, T.V. et al.  
1996. over 300 pages, 83 B&W plates. paperback. \$143.00

Contributions in Phycology. Volume in honour of  
Professor T.V. Desikachary. Prasad, A. K. et al. (eds.)  
1996. Nova Hedwegia Beih. 112. 612 figures, 47 tables, 2  
appendices. 552 p. paperback. \$216.00

Lichen Biology, Thomas H Nash III, 303 pages, figs, tabs.,  
CUP, GBP 50 - 1995 hardback, GBP 16.95 - 1996 paperback

The Genus *Characiopsis* Borzi (Mischococcales,  
Tribophyceae): Taxonomy, Biogeography and Ecology,  
1995, Haydeé Pizarro, Series: BIBLIOTHECA  
PHYCOLOGICA 98, 147 pages, plates., Gebrüder  
Borntraeger, Germany 52.50ポンド

Progress in Phycological Research, Volume 11. Round,  
F. E. R and Chapman, D. J. (Eds.), 1995, 400 pages.  
Biopress, 約 85ポンド

Bibliographic Checklist of Non-Marine Algae in Australia.  
Day, S. A., Wickham, T. J., Entwistle, T. J. and Tyler, P. A.  
1995, 276 pages, b/w illus. ABRs, Australia 約 35ポンド

## 表紙写真



これまでと少しばかり違う表紙の図柄にトライした。この  
号に書評が掲載された2冊の新刊書「海藻おしば」と「ま  
るいはマリモ」の表紙を、それぞれの出版社の許可を得て  
掲載した。いずれの本も広く社会や子供を意識して作られ  
ているが、書評にもみえるように、専門家にとっても大変  
役に立つ内容を含んでおり、また藻類の面白さと藻類を理  
解することの大切さを訴える力をもっている。このような  
書物がもっと世に出ていけば、藻類の”市民権”も確かな  
ものになっていくだろうと思いつつこの表紙を選んだ。ず  
いぶんタイプは異なるが、いずれも美しい装丁だと思う。

和文誌編集委員会 井上 勲

(海遊舎および福音館書店の許可を得て掲載)